

# 患者さんに“より安全な血液”を！絶対にしないでください。

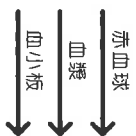
輸血の安全性を高めるために検査目的の献血は

皆様に献血車や献血ルームで提供いただいた血液は、厳しい検査を行い、患者さんの様々な病状にあわせ、血液成分毎に調製され有効に使用されています。

献血された血液は…



(血液センター) いろいろな血液成分に調製



いま、献血でいちばん必要なこと。それは、「安全」です。

赤十字血液センターでは、より安全な血液を供給するため、献血いただいた血液の厳しい検査を行っています。しかし、ウイルス感染症直後の血液は、検査で感染を判断できない期間(ウインドウ・ピリオド)があり、その期間の血液が紛れ込んでいますと検査をすり抜け、患者さんにウイルスを感染させてしまう恐れがあります。

**エイズ感染の可能性がある方や検査目的の方は絶対に献血しないでください。**

より安全な輸血のため、次の項目に該当する方の献血はご遠慮ください。

1. エイズウイルス(HIV)感染の可能性のある方および検査が目的の方
2. 肝炎感染の可能性のある方
3. 輸血を受けたことのある方
4. マリウアの流行地から帰国されて一年以内の方、マリウアの既往がある方



より安全で、有効な輸血を患者さんに！  
400mL献血・成分献血のご協力をお願いします。

人間一人ひとりの血液は、たとえ血液型が同じでも微妙に違ってきます。このため複数の献血者からの血液をあわせて一人の患者さんに輸血するほど、副作用(発熱、発疹など)発生の可能性が高くなります。

800mLの輸血に必要な献血者数

たとえ800mLの輸血が必要な場合、200mL献血では4人分必要ですが、400mL献血では2人分で済みます。

ですから、輸血後肝炎やその他の副作用発生の可能性が低く安全性が向上します。



**ご希望の方には血液検査の結果や血液型をお知らせします。**

血液センターでは、すべての献血者に血液検査(生化学検査)を行うため、献血者が体の健康状態の把握をすることができ、その際に献血者の血液型も判定いたします。またその結果は、外部に漏れることなく、献血者本人にのみお知らせをするようになっていきます。自分では気が付かなかった病気が献血時の検査で見つかり、早く適切な治療を受けることが大事に至らなかつたケースも数多くあります。

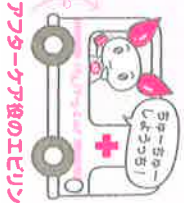


けんけつちゃんのみつ

ハートラウンテン



それぞれの役割



※献血の針は一人ずつ使い捨てますので、エイズ等の感染症の心配はありません。  
※それに、採血中や採血後に気分不良やめまい(VVR)、皮下出血等が起ることがあります。いずれの場合も、直ちに近隣の看護師、医師等にお知らせください。  
なお、採血に伴う主な副作用の年間発生率は次のとおりです。  
血管迷走神経反応(VVR)は約0.85%、皮下出血は約0.19%、神経損傷類似症状は約0.01%。(平成22年度)  
※献血者の皆様の個人情報、当社の責任において厳重に管理しております。